

「カーボン・ニュートラル達成に貢献する 大学等コアリション」

運営委員会等への参加予定大学等一覧

※令和3年3月18日時点

【北海道大学】 北海道大学は1876年に札幌農学校として開学以来、環境と向きあってきました。「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」及び「実学の重視」の4つの基本理念を基に「世界の課題解決に貢献する」大学を目指した教育・研究活動が、THE大学インパクトランキング2020で総合ランキング国内1位の評価につながりました。

【山形大学】 山形県内のゼロカーボンシティ宣言は、北日本では最多の自治体が単独表明しており、全国でも有数の脱炭素に積極的な地域となっています。目標実現には6学部を有し4キャンパスを県内広域に立地する、地域密着型の総合大学である山形大学に対して、その研究・教育によって地域の先導的な役割を果たすことが期待されています。

【筑波大学】 筑波大学は、未来社会をデザインできる新たな「知」を創出する存在感のある総合大学として、地球規模課題を解決し持続可能な人類社会の形成に貢献することを目標としています。SDGs、特にカーボンニュートラルの実現に向けて、本学は様々な研究分野の融合、産業界・地域との協働、また国を越えた連携により取り組んでまいります。

【東京農工大学】 本学の研究戦略2021では、農工全キャンパスのソーラールーフ化の実施を考えています。また、独自の太陽光発電と新蓄電技術や超低損失パワーエレクトロニクス技術、気象情報を用いたAI・エネルギーのデジタルマネージメントを導入することにより、あらゆる天候に対応したCO2削減と省エネを同時に達成することを掲げ、エコシステムの構築を目指しています。

【福井大学】 エネルギー移出地域の大学として、地域企業と共に文部科学省事業等を活用し、安全・安心エネルギーデバイス・材料に関する研究を進めてきました。各種蓄電池や燃料電池、太陽電池、パワーレクティブデバイス、熱輸送システム、原子力・エネルギー等に関する研究について、基礎から実証まで幅広く取り組み、成果を地域と共有しています。

【名古屋大学】 名古屋大学では、環境学研究科、フューチャー・アース研究センター、未来社会創造機構、未来材料・システム研究所、ナショナルコンポジットセンターなどの諸組織が省エネやカーボン・ニュートラルを目指して活発に活動しており、これらを中心に学内外と連携して地球環境の改善に貢献しています。

【三重大学】 本学は、地域貢献型大学として、また世界に誇れる環境先進大学として、様々なステークホルダーと連携しながらグローバルな教育・研究活動を行っております。そして、キャンパスをフィールドとした脱炭素社会の実証事業を行い、そこで得られた知見を正課教育や社会人リカレント教育というかたちで地域と世界に還元しております。

【大阪大学】 大阪大学は、地球規模の社会課題を解決するため海外大学との共創により、新しいエネルギー等の研究や人材育成を推進しています。また、全国に先駆けて、カーボンニュートラルなキャンパスの実現に向け、温室効果ガス排出量を2030年度までに2013年度比40%以上削減することを目標に掲げ、脱炭素社会に貢献する大学を目指します。

【島根大学】 島根大学では、カーボンニュートラルに資する取組として、CO2からメタノールを高効率で製造する技術開発の実用化に向けた共同研究を企業との間で推進しています。ごみの焼却処理等から発生するCO2及び使用済みプラスチックやバイオマス資源とした炭素循環の確立を目指すなど、SDGs実現に向けた持続可能な社会の構築に貢献します。

【広島大学】 広島大学は、東広島市と連携してTown & Gown構想を打ち出し、住友商事、アリゾナ州立大学を含む新たな産学官連携により、SDGs達成やスマートシティ建設に向けた日常的・包括的な関係を構築しました。具体的な取り組みの第一歩として、2021年1月に2030年までの実現を目指す「カーボンニュートラル×スマートキャンパス5.0宣言」を行いました。

【九州大学】 九州大学は、アジア初の産業革命が起こった北部九州の地に1911年に創立され、水素研究、地熱研究、風車研究などの特徴ある取り組みを進めてきました。総長のリーダーシップで「エネルギー研究教育機構」を設立し、「カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所」を擁し、大学を挙げて脱炭素社会実現を目指しています。

【東北大学】 東北大学は「社会とともにある大学」として、最先端研究および国際的なネットワークをもって社会課題解決に貢献してまいりました。この度、持続可能でレジリエントなグリーン未来社会の実現を目指し「グリーン未来創造機構」を新設し、最先端研究の推進とその成果の社会実装を通じてカーボンニュートラルの実現を一層推し進めます。

【茨城大学】 茨城大学では2006年に地球変動適応科学研究機関を設置し、環境分野の先進的拠点として2020年に地球・地域環境共創機構へ発展し環境共創研究やサステナビリティ学を展開しています。活発な産学官連携、学内に設置した地域気候変動適応センターを介した自治体との連携等を通じ研究成果を地域と共有し、環境と経済の好循環を目指します。

【東京大学】 グローバル・コモンズセンターを設立し、地球への負荷を大きく減らす方向への行動変容を促す、グローバル・コモンズのフレームワークとインデックスの開発を進めます。カーボン・ニュートラルを含むSDGsに関連する教育をコアカリキュラムとして全学的に展開予定。新体制でこのような活動をより強力に、組織的に進めるための枠組みを構想中です。

【東京工業大学】 東京工業大学は、カーボンニュートラル技術に関する総合的な研究を推進するゼロカーボンエネルギー研究所、および、基礎科学、工学、社会科学など本学が関わる全分野の研究力を活用して、社会に貢献する研究のみならずゼロカーボンに向けての大学運営にも取り組み、持続可能なゼロカーボンエネルギー社会の実現を目指します。

【信州大学】 信州大学では、ISO14001の認証取得に始まり、環境マインド実践人材養成コースの設置など独自の環境マネジメントシステムやSDGsの視点を取り入れた人材育成に取り組んできました。その成果は、持続可能なキャンパス環境への取り組みを評価する世界の大学ランキング「UI Green Metric World University Ranking2019」において、「3年連続国内1位、世界38位」と評価されています。

【豊橋技術科学大学】 豊橋技術科学大学は、カーボンニュートラルの達成に貢献できるエネルギー関連システムやデバイスなどに関し、ユニークで先進的な研究を数多く推進しています。その一部は、立地する愛知県東三河地域において、自治体や地元企業等と実証研究（例：バイオガス発電）や開発研究（例：太陽光発電予測）を地域の核となり実施しています。

【京都大学】 京都大学では、「地球社会の調和ある共存」への貢献を基本理念に掲げ、エネルギーや地球環境を組織名に掲げる研究科、研究所等を擁し、多様な教職員・学生が研究教育、社会連携、国際交流を推進しています。また、環境憲章の策定、独自の環境賦課金制度導入など、サステナブルキャンパス実現に向け先進的に取り組んでいます。

【神戸大学】 神戸大学は、「SDGs推進室」を設け、カーボン・ニュートラルを全学的に推進しています。自治体や企業と連携した環境をテーマにした研究はもちろん、学生が自発的に「環境会議」を創設するなど、全学が一体となって未来を創造する大学の使命に取り組んでいます。

【岡山大学】 第1回ジャパンSDGsアワード特別賞受賞など、岡山大学はSDGs貢献を大学経営の中心に置いています。SDGs達成に向けた本学の取り組み（現在255事例）中、カーボンニュートラル（CN）に関係する32事例で構築した実績を基に「グリーンエネルギー創出・活用」および「CN機能素材」領域で地域共創に貢献したいと思っております。

【山口大学】 本学は、環境マネジメント対策推進会議において「環境目標と行動計画」の基本方針を策定し、SDGs及び国民運動「COOL CHOICE」に取り組んでいます。今後は、これらの活動を産業界等と連携して推進し、人材育成や地域の課題解決を行い、地方創生に貢献する地方大学の「ゼロカーボン・キャンパス」のモデルの一つとして確立したいと思っております。

【長崎大学】 長崎大学では、「プラネターヘルス（地球の健康）」を大学の理念として掲げており、社会や地球が抱える諸問題に対して専門的知識を集約させて挑み、既存の分野や領域に捕われない複眼的視点で新しい知の創出に向けて専断力しております。国際的な研究力強化と地方創生に向けて、全学的に取り組んでまいりたいと思っております。

【宮崎大学】 宮崎大学では、多くの太陽光発電システムをキャンパス内に設置しています。宮崎の恵まれた日射条件を活かし、企業との共同研究により、これらの解析結果を太陽光発電システムの高効率化に活用してきました。また、地域から発生する農畜産廃棄物をバイオマスやバイオガス発電の燃料源として用いるための研究開発を進めています。

【奈良先端科学技術大学院大学】 本学は学部を持たない研究大学大学院として、情報、バイオ、物質創成の3領域と、データサイエンス等の融合領域センターにより、最先端エネルギー・エレクトロニクス技術を世界に発信しています。本学発のイノベーションを奈良県やけいはんな学研都市の地域エコシステムに展開し、古都奈良の地から本プロジェクトを強力に推進します。

【宮城大学】 CO₂を大量に排出する都市と緑豊かな地域、カーボンニュートラル政策は地域に新たな光を与えます。宮城大学では、これまで地域の生活とその基盤となる食の開発等に取り組んできました。今後、自治体や地元企業とともに、持続可能で、災害にレジリエントな地域社会の創出に取り組んでいきます。

【北九州市立大学】 北九州市は、2020年10月にゼロカーボンシティ宣言を行い、産業都市としての脱炭素を目指しています。本学は、公立大学として市と連携し、街区や電源の脱炭素化、水素蓄電システムの導入可能性等のエネルギー・マネジメント分野の研究開発や、再生可能エネルギー・洋上風力発電分野の人材育成に取り組んでいます。

【千葉商科大学】 千葉商科大学は、大学では日本初、学内で使う電力全てを再生可能な自然エネルギーに切り替えました。この本学の経験、知見を大学コミュニティに広げようと、「自然エネルギー大学リーグ設立準備会」を今年2月18日に設立しました。本コアリションとも連携しながら、「RE100大学」の輪を広げていきたいと考えています。

【芝浦工業大学】 教育研究活動を通してエネルギー消費の抑制、再生可能なエネルギーシステムの構築、地球環境の再生と保全のために積極的に貢献します。また、実践型人材育成を目的とした産学官民連携事業の強化や、広域大学間連携を核とした多分野産学連携による総合的な研究テーマの展開といった事業にも取り組みます。

【東海大学】 19学部75学科の多様な学びのフィールドをもつ総合大学として、東海大学は世界のQOL向上を実現するために、総力をあげて教育研究を展開しています。カーボン・ニュートラル社会の構築ために、グリーンエネルギー利用技術の開発や、その必要性を理解する環境教育などを、地域と連携しながら推進してまいります。

【愛知工業大学】 愛知工業大学では、SDGsの関わる研究の中でカーボンニュートラルについても重点テーマとして取り組んでいます。また本取組は学内にとどまらず「あいちゼロカーボン推進協議会」設立発起人として地域連携、産学行政連携によるカーボンニュートラルに向けた活動に貢献しています。

【関西大学】 本学は「関西大学環境憲章」のもと、サステイナブル・ユニバーシティ構築を宣言。現在は「環境保全委員会」及び「KANDAI for SDGs推進プロジェクト」を設置し、全学的規模での環境保全活動に取り組んでいます。持続可能な脱炭素型社会の実現に向けたキャンパスの整備とともに研究成果の社会実装や環境教育による人材育成を通じて、その先導的役割を担ってきたいと思っています。

【広島工業大学】 環境共生型社会の構築や地球環境問題に対応できる実践力を備えた技術者を育成するため1993年に全国で初めて環境学部を設置しました。地元企業及び地方自治体と連携しながら研究・教育を進め、地域社会における創造の拠点となる大学を目指しています。SDGs推進センターを核として、脱炭素社会の実現に向けて活動したいと思っています。

【福岡大学】 本学では、エネルギー技術や水素材料に関する様々な研究を行っています。具体的には、燃料電池やそこで用いられる高圧水素ガスを利用する際の材料を研究し、水素利用拡大と低コストを実現するための合理的なスキームを目指しています。先進的な水素関連技術の開発に取組み、「福岡水素エネルギー戦略会議」へも参加しています。

【北陸先端科学技術大学院大学】 プラスチックのリサイクル使用や長期使用は今や世界的な課題となっています。その概念には資源の有効利用やCO₂排出量の削減も含まれ、カーボン・ニュートラルに深く関連した課題と考えられます。北陸先端科学技術大学院大学はこの分野に強みを有するマテリアルの研究・開発と、AI・DX等の情報技術によって、本課題の解決に貢献していきたいと思っています。

【総合地球環境学研究所】 地球研は、京都府・京都市・京大などと連携して、『京都脱炭素宣言』を宣言し、府市の部署横断組織と合同で、京都地域での脱炭素化へ向けた連携と共同研究も進めています。また研究プロジェクトとして、市区レベルで、食品、電気、ガス、医療、公共交通機関など11項目別のCO₂排出量の推計を明示し、全国平均等との比較が可能で、その地域の特色が一目でわかる可視化を行っています。

【山梨県立大学】 山梨県立大学は、「人間には、環境と調和したより良い社会の実現に取り組む責務が課せられている」との考えのもと、地域社会の持続可能な発展に貢献する教育・研究機関として、環境活動に誠実に取り組んで来ました。人類が直面する深刻な気候変動問題の解決のため、カーボンニュートラル達成にも積極的に貢献して参ります。

【足利大学】 本学では、学部、大学院に自然エネルギーコース、再生可能エネルギー・環境工学コースを設置し、長年、風力、太陽光、小水力、バイオマス、波力などの研究を続けてきました。現在は、洋上風力発電が日本で最も有力な再生可能エネルギーとして位置づけ、デンマークの工科大学と連携した研究開発、人材育成の準備を進めています。

【慶應義塾大学】 慶應義塾大学は教育・研究・医療における活動において、地球環境の保全と持続可能な循環型社会の発展に貢献します。毎年度CO₂排出・エネルギー使用量データ集計しており、その削減に努めるとともに、ゼロカーボン化やカーボン・ニュートラルについて重要な研究課題として大学で取り組んでいます。

【中央大学】 中央大学は、持続可能な社会構築に向けた貢献を積極的に行います。2050年カーボン・ニュートラルを実現するために、学内外に向けての情報発信や学習プログラムの充実、技術イノベーションの開発を研究・教育の側面からリードしてまいります。また、地域への貢献、国際社会との連携に取り組んでいきます。

【早稲田大学】 早稲田大学ではカーボンニュートラルの実現に向けた様々な実践的研究を推進し、研究者の連携や社会実装を目的とした「早稲田地球再生塾(WERS)」を立ち上げ、化石資源脱却およびカーボンリサイクル推進によるグリーンイノベーションを推し進めています。各キャンパスでは建物別の電気・ガスの見える化を今秋予定しています。

【中部大学】 中部大学は7学部・6大学院研究科と研究所・センター、文部科学省「共同利用・共同研究拠点」がワンキャンパスにあり、持続可能な地球のための知の統合を目指し、最先端の研究と教育を行っています。これからも本学はESD学園として包括的なSDGsへの取り組みを推進し、カーボンニュートラルの実現を目指します。

【岡山理科大学】 本学のビジョンに基づき、教育を支える魅力ある研究を推進し、地域とともに発展する大学を目指しています。現在、社会的要請の高いカーボン・ニュートラルに関連した、電気自動車に関する要素技術開発、太陽光発電に関する分子設計化学についての研究プロジェクトを進めています。

【四国大学】 四国大学は、先進的の地域貢献大学として、SDGsや消費者教育への取組を通して持続可能な社会づくりの担い手となる人材を育成しています。また、ゼロカーボンキャンパス実現に向け、学生による政策提言や環境保護活動、地域・自治体や企業との連携によるグリーンエネルギーの啓蒙・普及活動にも積極的に取り組んでいます。

【地球環境戦略研究機関】 地球環境戦略研究機関(IGES)は、温室効果ガス排出ネットゼロと持続可能な開発の同時達成に向けた社会の変革を促進する「チェンジ・エージェント」として、これまで多様なステークホルダーとの間で培ってきたネットワークを活かし、脱炭素ドミノの実現に貢献するとともに、地域と大学等の連携を強化する役割を果たします。